令和6年度 3学期終業式 校長式辞

令和6年度も、授業日としては最終日を迎えました。

この一年間は皆さんにとってどんな一年間だったでしょうか。それぞれが自分らしく活躍できた一年であったのなら、良かったと思います。

さて今日は、「天国と地獄」という話をしましょう。

ある人が不慮の事故により、あの世へと旅立つことになりました。そこに向かう途中、閻魔大王が待っています。そこで彼は閻魔大王に聞かれます。「お前は天国に行きたいのか、それとも地獄に行きたいのか。」

「そりゃ天国でしょう」と彼は思うわけですが、好奇心の強い彼は「両方見せてください」と答えます。「よかろう」ということになり、まず彼は天国の様子を見に行きます。

天国と書かれた扉を開けると、そこは食堂になっており、長いテーブルに人々が向かい合って座っています。「食事が始まるんだな」と思ってよく見ると、机の上に置かれたナイフとフォークはそれぞれ 1m もありそうな長いものでした。「あのナイフとフォークで食べるのは大変そうだな」と思って見ていました。

しかし、準備はまだのようで、なかなか食事が始まりません。そこで彼は、地獄も見てみようと思い、地獄の扉の前に行きます。その扉を開けると、ここでも食事の準備がされていて、人々が向かい合って席についています。机の上には、天国と同じ 1m もある長いナイフとフォークがおかれています。「どちらも同じなのか」と思って眺めていると、いよいよ料理が運ばれてきて食事が始まりました。

料理はステーキです。長いナイフとフォークを使ってどうやって食べるんだろうと思って見ていると、地獄の人たちはそれぞれその長いナイフとフォークを使って一生懸命になって自分の皿の肉を切って食べようとします。しかし、1m もの長さのあるナイフとフォークですから、隣の人のナイフやフォークが当たったり、腕やひじが当たったりして、思うように食べることができません。

そんな中でも、なんとかステーキを切って口元まで運んでいく人も現れます。するとそれに気付いた向かいの人が「一人だけ食べさせてなるものか」とばかりに自分のナイフとフォークでその人の肉をはたき落としてしまいます。そして、次に自分がステーキを切って食べられそうになっても、向かいの人がそれに気付き、肉をはたき落としてしまうのです。そんな光景があちこちで起こり、互いにいがみ合ってばかり。いつまで経っても誰も一口も食べることができないのでした。

そこで彼は思います。「天国はどうなっているんだろう？」

彼はもう一度天国の扉の前に戻りました。外から様子を伺うと、全く静かです。扉を開けると、みんなニコニコしながらステーキを食べています。「え、どうなってるの？」と彼は思うわけです。

さあどうなっているのでしょう。何が地獄とは違うのでしょうか。少し隣の人と話し合ってみましょうか。

実は、天国の人たちはこんな風にしていました。自分の持っている 1m のナイフとフォークで向かいの人の皿に乗ったステーキを切り分けます。そしてフォークに刺し、向かいの人の口元に運んであげます。するとその人は一口食べて、「ありがとう」とお礼を言います。次は逆に、向かいの人が自分の皿の上のステーキを切ってくれて、それを自分の口元に運んでくれるので、パクッと食べて「ありがとう」と微笑みながら答えます。こうい

う光景があちこちで見られたのでした。

さて、この天国と地獄、何が違うのか分かりますか。最初の状況はまったく同じです。しかし、何かが天国と地獄の違いを作り出しているのです。それは何でしょうか。

きっと分かる人もいますよね。それは、そこにいる人達の「心」です。

自分の事ばかり考え、他人のことは考えない。人を嫉妬して、その足を引っ張ろうとする。そういう人たちが集まっているところでは、結局だれも思うような結果を得られません。それが「地獄」です。

では、天国はどうでしょう。自分のことだけではなく、周りの人のことも考えながら、人の為に動くことができる。人から親切にされれば、素直に感謝し、ありがとうと言える。お互いに助け合いながら、望みを達成することができる。これが「天国」です。

与えられた状況は全く同じはずです。しかし、そこに居る人達の心の在り方によっては、そこは天国にも地獄にもなるのです。

「天国や地獄はもともとあるものではない。それは人の心が作っていくものだ」

この話はそういうことを訴えたいのだと思います。

自分のことばかりを考える人たちの世界と、自分のことだけではなく人のこともきちんと考えられる人たちの世界。

人と人との心が繋がっていない世界と、人と人との心がつながっている世界。

あなたはどちらを選びますか？

あなたは、あなたの周りを天国にする人であろうとしますか？それとも地獄にしてしまう人なのですか？

それは、あなた次第なのです。あなた自身が、あなたの周りの世界や環境を変えていくことができるのです。

今、世界を見渡せば、あちらこちらで紛争や社会問題が起きています。その原因はさまざまかもしれません。しかし、人類は奪い合いを続けるのか、それとも分け合うことができるのか。それを私たちは考えなければならないのかもしれません。

これからの未来を生きていくみなさん、ぜひ、周りを天国にすることができるひと、周りの人を幸せにすることができる人、そんな人であってほしいと、願っています。

この一年間、あなたたちに様々なお話をしてきました。

元メジャーリーガーの松井秀喜氏の座右の銘として紹介した「心が変われば態度が変わる。態度が変われば・・・」と続く話。心、態度、行動、習慣、人格、そして人生が変わるという話でした。

「世の中の大事なことは、たいてい面倒くさい」、宮崎駿さんのこの言葉も紹介しました。

イソップ童話から「生クリームに落ちた三匹のカエル」の話。最後まで諦めなかったカエルは望みを達成しました。

「雲外蒼天」は、平野美宇選手の書き初めでした。雲の向こうには必ず青空が広がっています。

自分の運を開くには方法がある、「気づく力」と「見つける目」が必要だ、という話もしました。

少しでも心に残してくれるとうれしいですね。

春休みを経て新年度が始まると、あなたたちは新 3 年生と新 2 年生です。
新 3 年生はいよいよ受験へと向かいます。ベストを尽くさず、後から悔やむ、ということはしたくはありませんね。
新入生を迎えると、新 2 年生も「先輩」という立場になります。学校の中心として活躍していってくれることを期待しています。
そして、小坂井高校としては、50 周年という節目の年度を迎えます。記念事業のテーマは「受け継ぐこころ 創り出すみらい」です。それぞれの立場から小坂井高校のアニバーサリーイヤーを盛り上げていってください。

令和6年度をしっかりと締めくくり、そして令和7年度があなたたち一人一人にとってさらに充実した一年となるよう、願っています。

最後に、私は今年度末をもって、校長という職を退くことになります。したがって、今日のこの式辞が皆さんへの最後の式辞ということになります。少し長くなってしまいましたが、しっかりと聞いてくれてありがとう。
一つ私から、お願いがあります。この後、Classi であなたたちにアンケートを送ります。今日の話について、皆さんの感想を聞かせてくれると私にとっても良い振り返りになります。一言でも書いてくれるとうれしいです。

それでは、以上で私からの最後の式辞を終わりとします。みなさん、ありがとう。